

L01a 「黒点変動と太陽系天体位置との興味ある関係」から

藤原ケイ

太陽黒点の発生及びその変動要因は 太陽内部にあるとする考え方が有力であるが、未だ解決に至っていない。そこで 筆者は視点を広げ、太陽以外の周囲天体が関与しているのではないかと考えて、検討を進め、前回（2017年秋季大会）の講演で、「黒点の発生・変動は太陽の内部活動の結果ではなく、太陽を取り巻く諸天体の相対位置に依存している可能性がある」ことを指摘した。具体的には 「黒点変動」と「木星、周期彗星（133P、176P）、小惑星帯とその分布、の黄経と黄経差」 に密接な関係が存在することを明らかにし、ここから 太陽に向う仮想流体の存在を仮定して 因果律に反しないストーリーを提案した。今回は 前回得られた内容を再確認するとともに、仮定した「仮想流体」の具体的なイメージを構築し、「仮想流体」によって解決できる可能性のある諸課題について言及する。この中には 土星、地球等の惑星の役割を含む太陽系全体の構造モデル、及び 太陽黒点現象に加えて、太陽磁場の反転、地球の気圧振動現象も含まれる。

概要は、

- (1) 仮想流体を攪乱支配しているのが 木星を中心にした太陽系天体位置であり、
 - (2) 仮想流体が太陽の黒点を発生させ、惑星等にも大きな影響を与えていること、
 - (3) 仮想流体の存在について、
- モデルとともに示すものである。